

## 南海トラフ地震関連解説情報について

### －最近の南海トラフ周辺の地殻活動－

現在のところ、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時<sup>(注)</sup>と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。

(注) 南海トラフ沿いの大規模地震(M8～M9クラス)は、「平常時」においても今後30年以内に発生する確率が70～80%であり、昭和東南海地震・昭和南海地震の発生から既に70年以上が経過していることから切迫性の高い状態です。

#### 1. 地震の観測状況

(顕著な地震活動に関する現象)

南海トラフ周辺では、特に目立った地震活動はありませんでした。

(ゆっくりすべりに関係する現象)

プレート境界付近を震源とする深部低周波地震(微動)のうち、主なものは以下のとおりです。

(1) 四国西部：12月11日から15日

(2) 四国中部：12月15日から18日

これとは別に以下のとおり、プレート境界付近で浅部低周波地震(微動)及び浅部超低周波地震を観測しています。

(3) 紀伊半島南東沖：12月6日から継続中

#### 2. 地殻変動の観測状況

(ゆっくりすべりに関係する現象)

上記(1)、(2)の深部低周波地震(微動)とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計でわずかな地殻変動を観測しました。周辺の傾斜データでも、わずかな変化が見られています。

上記(3)の浅部低周波地震(微動)及び浅部超低周波地震とほぼ同期して、周辺の複数の孔内間隙水圧観測で地殻変動に起因するとみられるデータの変化が観測されています。

GNSS観測によると、2019年春頃から四国中部でそれまでの傾向とは異なる地殻変動が観測されています。また、2020年夏頃から紀伊半島西部・四国東部でそれまでの傾向とは異なる地殻変動が観測されています。加えて、2020年夏頃から九州北部及び九州南部でそれまでの傾向とは異なる地殻変動が観測されています。

(長期的な地殻変動)

GNSS観測等によると、御前崎、潮岬及び室戸岬のそれぞれの周辺では長期的な沈降傾向が継続しています。

#### 3. 地殻活動の評価

(ゆっくりすべりに関係する現象)

上記(1)、(2)の深部低周波地震(微動)と地殻変動は、想定震源域のプレート境界深部において発生した短期的ゆっくりすべりに起因するものと推定しています。

2019年春頃からの四国中部の地殻変動、2020年夏頃からの紀伊半島西部・四国東部での地殻変動、2020年夏頃からの九州北部及び九州南部での地殻変動は、それぞれ四国中部周辺、紀伊水道周辺、日向灘北部及び日向灘南部のプレート境界深部における長期的ゆっくりすべりに起因するものと推定しています。

これらの深部低周波地震（微動）、短期的ゆっくりすべり、及び長期的ゆっくりすべりは、それぞれ、従来からも繰り返し観測されてきた現象です。

上記（3）と類似の浅部低周波地震（微動）及び浅部超低周波地震は、これまでも観測されています。これらの現象と想定震源域のプレート境界におけるゆっくりすべりとの関係については今後も観測・研究が必要です。

（長期的な地殻変動）

御前崎、潮岬及び室戸岬のそれぞれの周辺で見られる長期的な沈降傾向はフィリピン海プレートの沈み込みに伴うもので、その傾向に大きな変化はありません。

上記観測結果を総合的に判断すると、南海トラフ地震の想定震源域ではプレート境界の固着状況に特段の変化を示すようなデータは得られておらず、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。

以上を内容とする「南海トラフ地震関連解説情報」を本日18時に発表しました。

添付の説明資料は、気象庁、国土地理院、防災科学技術研究所、海洋研究開発機構、産業技術総合研究所及び東京大学地震研究所・防災科学技術研究所の資料から作成。

気象庁の資料には、防災科学技術研究所、産業技術総合研究所、東京大学、名古屋大学等のデータも使用。

産業技術総合研究所の資料には、防災科学技術研究所及び気象庁のデータも使用。

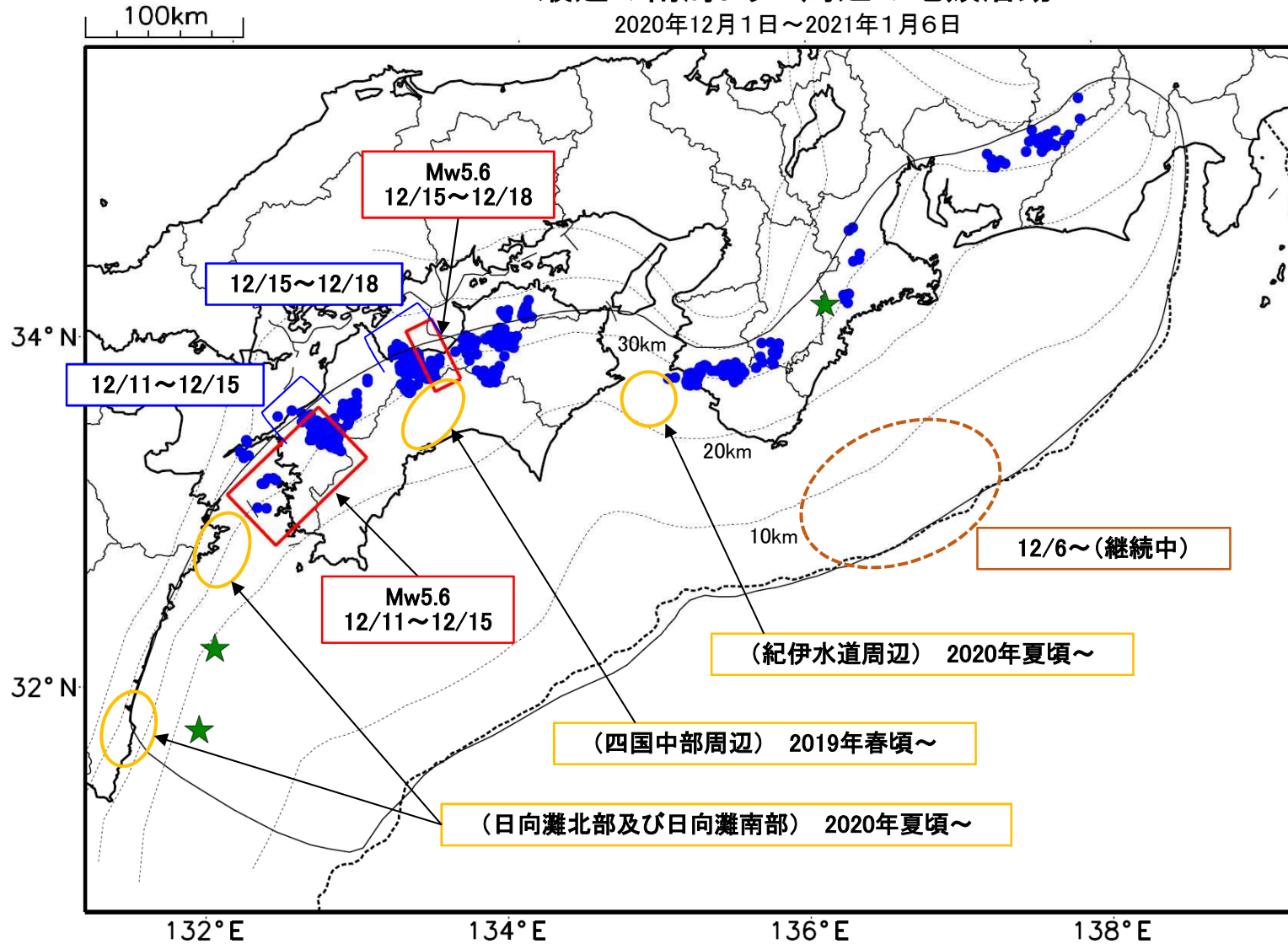
---

気象庁では、大規模地震の切迫性が高いと指摘されている南海トラフ周辺の地震活動や地殻変動等の状況を定期的に評価するため、南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会、地震防災対策強化地域判定会を毎月開催しています。本資料は本日開催した評価検討会、判定会で評価した、主に前回（令和2年12月7日）以降の調査結果を取りまとめたものです。

問合せ先：地震火山部 地震火山技術・調査課 大規模地震調査室 担当 宮岡 電話 03-6758-3900（内線 5244） FAX 03-3584-8643
--

# 最近の南海トラフ周辺の地殻活動

2020年12月1日～2021年1月6日



- 緑(★)  
通常の地震(最大震度3以上もしくはM3.5以上)
- 青(●)  
深部低周波地震(微動)
- 赤(□)  
短期的ゆっくりすべり
- 黄(○)  
長期的ゆっくりすべり
- 茶(○)  
浅部低周波地震(微動)及び浅部超低周波地震

※地図中の点線は、Hirose et al.(2008), Baba et al.(2002)によるフィリピン海プレート上面の深さを示す。

※M5.0以上の地震に吹き出しを付けている。

通常の地震(最大震度3以上もしくはM3.5以上)..... 気象庁の解析結果による。  
 深部低周波地震(微動)..... (震源データ)気象庁の解析結果による。(活動期間)気象庁の解析結果による。  
 短期的ゆっくりすべり.....【四国西部、四国中部】産業技術総合研究所の解析結果による。  
 長期的ゆっくりすべり.....【四国中部周辺、紀伊水道周辺、日向灘北部及び日向灘南部】国土地理院の解析結果を元におおよその場所を表示している。  
 浅部低周波地震(微動)及び浅部超低周波地震.....【紀伊半島南東沖】海洋研究開発機構及び東京大学地震研究所・防災科学技術研究所の解析結果を元に活動期間及びおおよその場所を表示している。

## 令和2年12月1日～令和3年1月6日の主な地震活動

○南海トラフ巨大地震の想定震源域およびその周辺の地震活動：

【最大震度3以上を観測した地震もしくはM3.5以上の地震及びその他の主な地震】

月/日	時:分	震央地名	深さ (km)	M	最大 震度	発生場所
12/18	14:24	日向灘	26	3.8	1	フィリピン海プレートと陸のプレートの境界
12/19	08:59	日向灘	25	3.7	1	
12/24	02:55	奈良県	28	3.6	3	

※震源の深さは、精度がやや劣るものは表記していない。

※太平洋プレートの沈み込みに伴う震源が深い地震は除く。

○深部低周波地震（微動）活動期間

四国	紀伊半島	東海
<p>■四国東部</p> <p>12月4日～5日</p> <p>12月11日</p> <p>12月16日</p> <p>12月18日</p> <p>12月25日～1月1日</p> <p>1月5日～（継続中）</p> <p>■四国中部</p> <p>12月2日～3日</p> <p>12月7日</p> <p>12月13日</p> <p><b>12月15日～18日</b> . . . (2)</p> <p>12月21日</p> <p>■四国西部</p> <p>11月29日～12月8日</p> <p><b>12月11日～15日</b> . . . (1)</p> <p>12月20日～21日</p> <p>12月25日</p> <p>12月27日</p> <p>12月29日～30日</p> <p>1月1日～2日</p> <p>1月4日～5日</p>	<p>■紀伊半島北部</p> <p>12月11日</p> <p>12月21日</p> <p>12月28日</p> <p>■紀伊半島中部</p> <p>12月12日</p> <p>12月25日</p> <p>1月4日</p> <p>■紀伊半島西部</p> <p>12月1日</p> <p>12月9日～10日</p> <p>12月18日</p> <p>12月20日～23日</p> <p>12月26日～28日</p>	<p>12月3日～6日</p> <p>12月8日</p> <p>12月12日～13日</p> <p>12月15日</p> <p>12月20日～21日</p> <p>12月23日～24日</p> <p>12月27日～30日</p>

※深部低周波地震（微動）活動は、気象庁一元化震源を用い、地域ごとの一連の活動（継続日数2日以上または活動日数1日の場合で複数個検知したもの）について、活動した場所ごとに記載している。

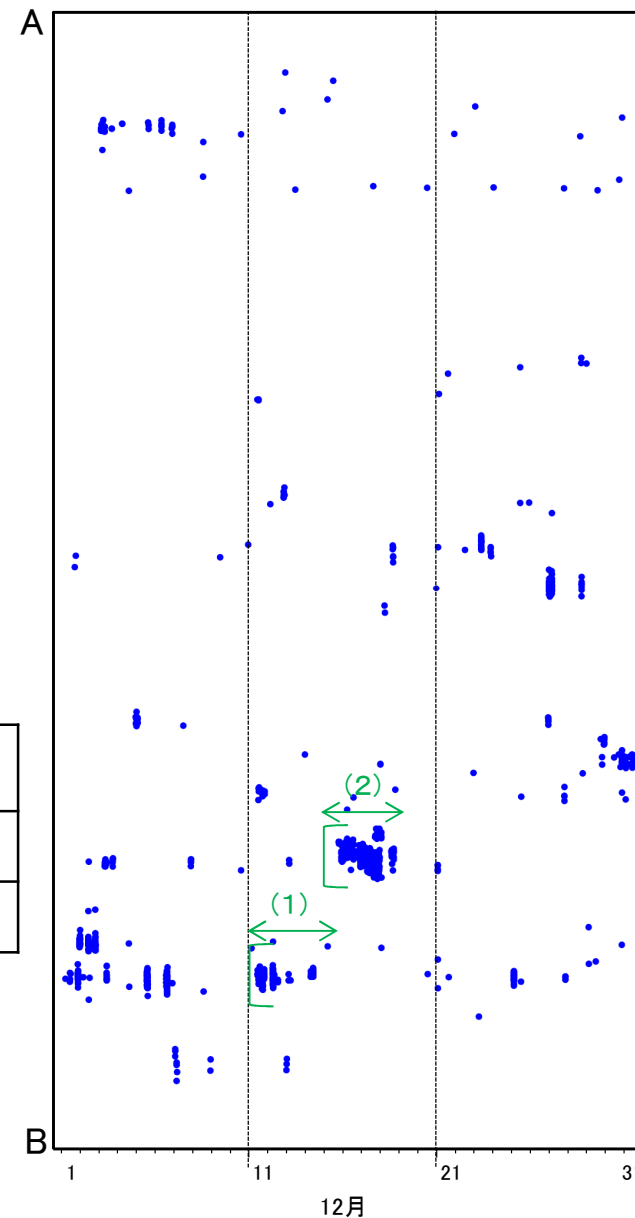
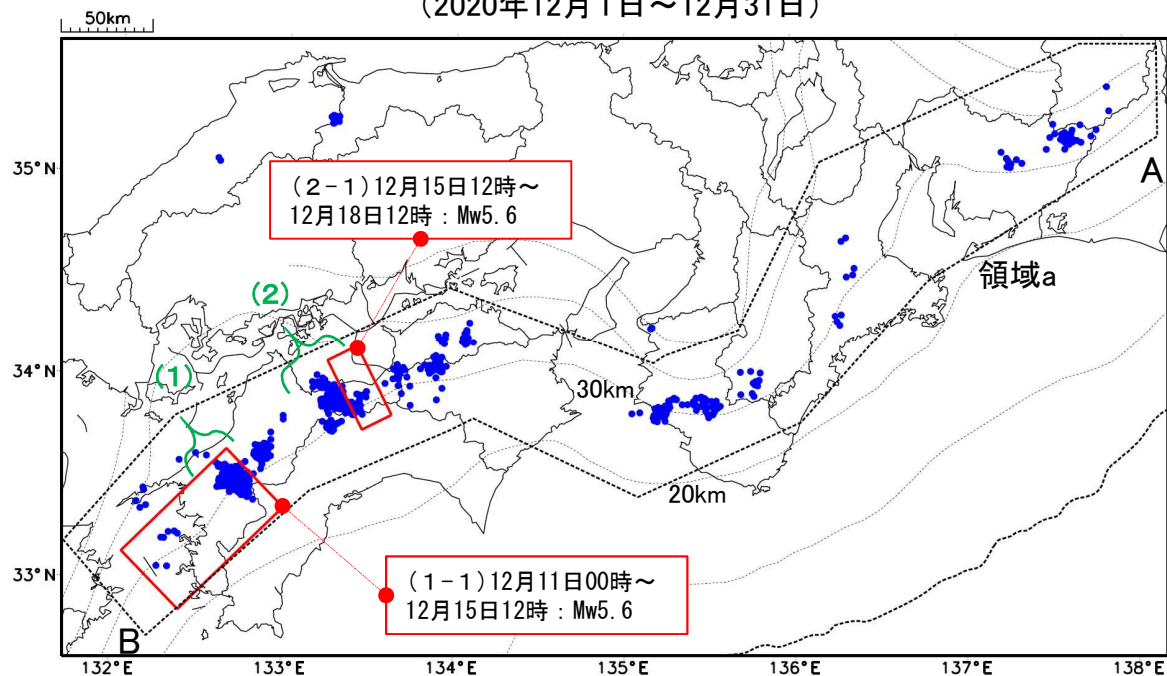
※ひずみ変化と同期して観測された深部低周波地震（微動）活動を赤字で示す。

※上の表中（1）、（2）を付した活動は、今期間、主な深部低周波地震（微動）活動として取り上げたものの。

# 深部低周波地震(微動)活動と短期的ゆっくりすべりの全体概要

深部低周波地震(微動)の震央分布図と短期的ゆっくりすべりの断層モデル  
(2020年12月1日~12月31日)

領域a(点線矩形)内の深部低周波地震(微動)の時空間分布図(A-B投影)



主な深部低周波地震(微動)活動と短期的ゆっくりすべり

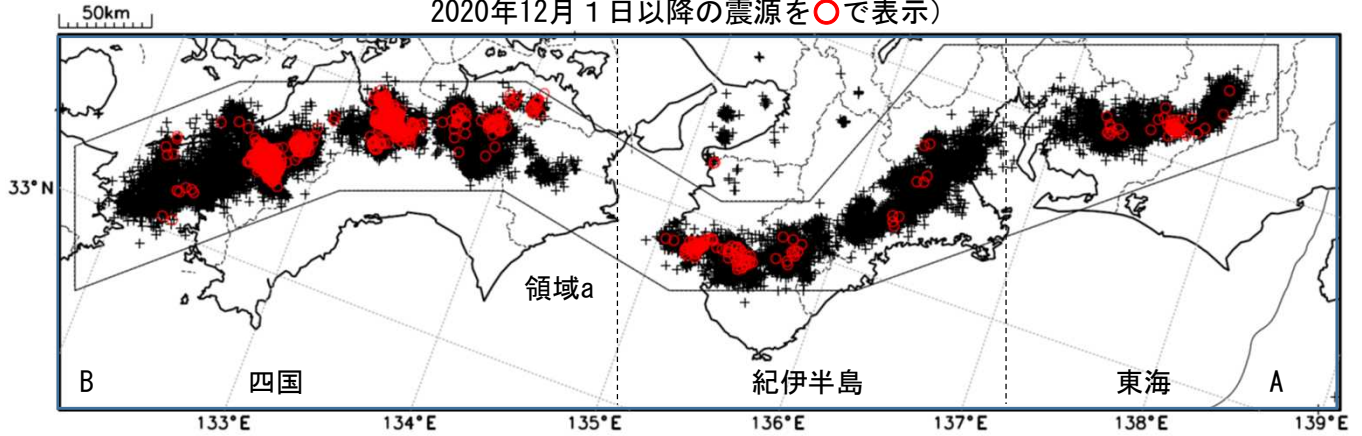
活動場所	深部低周波地震(微動)活動の期間	短期的ゆっくりすべりの期間と規模
(1) 四国西部	12月11日~12月15日	(1-1)12月11日00時~12月15日12時 : Mw5.6
(2) 四国中部	12月15日~12月18日	(2-1)12月15日12時~12月18日12時 : Mw5.6

● : 深部低周波地震(微動) 震央(気象庁の解析結果を示す)  
 期間(気象庁の解析結果を示す)  
 □ : 短期的ゆっくりすべりの断層モデル(四国西部、四国中部:産業技術総合研究所の解析結果を示す)  
 点線は、Hirose et al.(2008)、Baba et al.(2002)によるフィリピン海プレート上面の深さ(10kmごとの等深線)を示す。

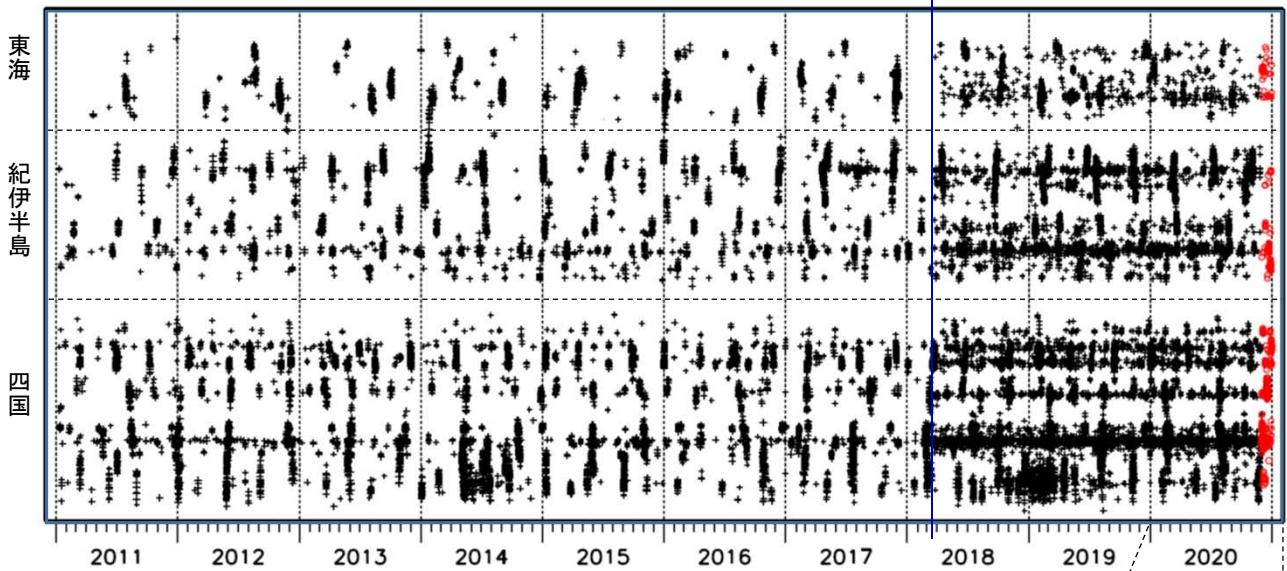
# 深部低周波地震（微動）活動（2011年1月1日～2020年12月31日）

深部低周波地震（微動）は、「短期的ゆっくりすべり」に密接に関連する現象とみられており、プレート境界の状態の変化を監視するために、その活動を監視している。

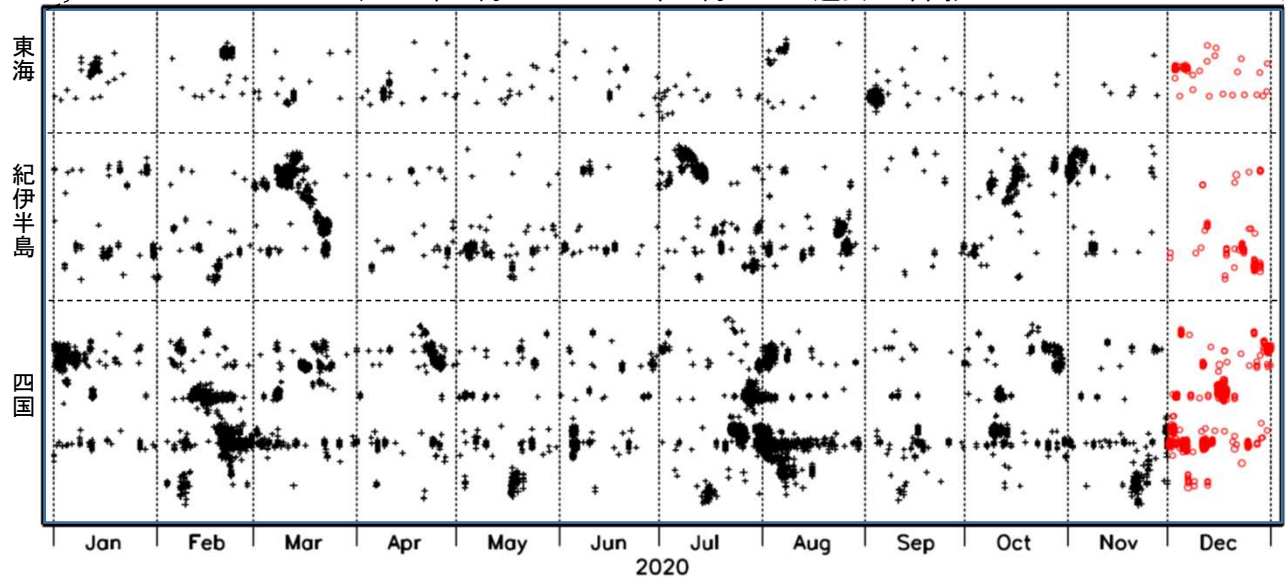
震央分布図（2011年1月1日～2020年12月31日：過去10年間  
2020年12月1日以降の震源を○で表示）



上図領域a内の時空間分布図（A-B投影） ※2018年3月22日



（2020年1月1日～2020年12月31日：過去1年間）



※2018年3月22日から、深部低周波地震（微動）の処理方法の変更（Matched Filter法の導入）により、それ以前と比較して検知能力が変わっている。

# 紀伊半島・東海地域の深部低周波微動活動状況 (2020年12月)

● 顕著な活動は、とくにみられなかった。

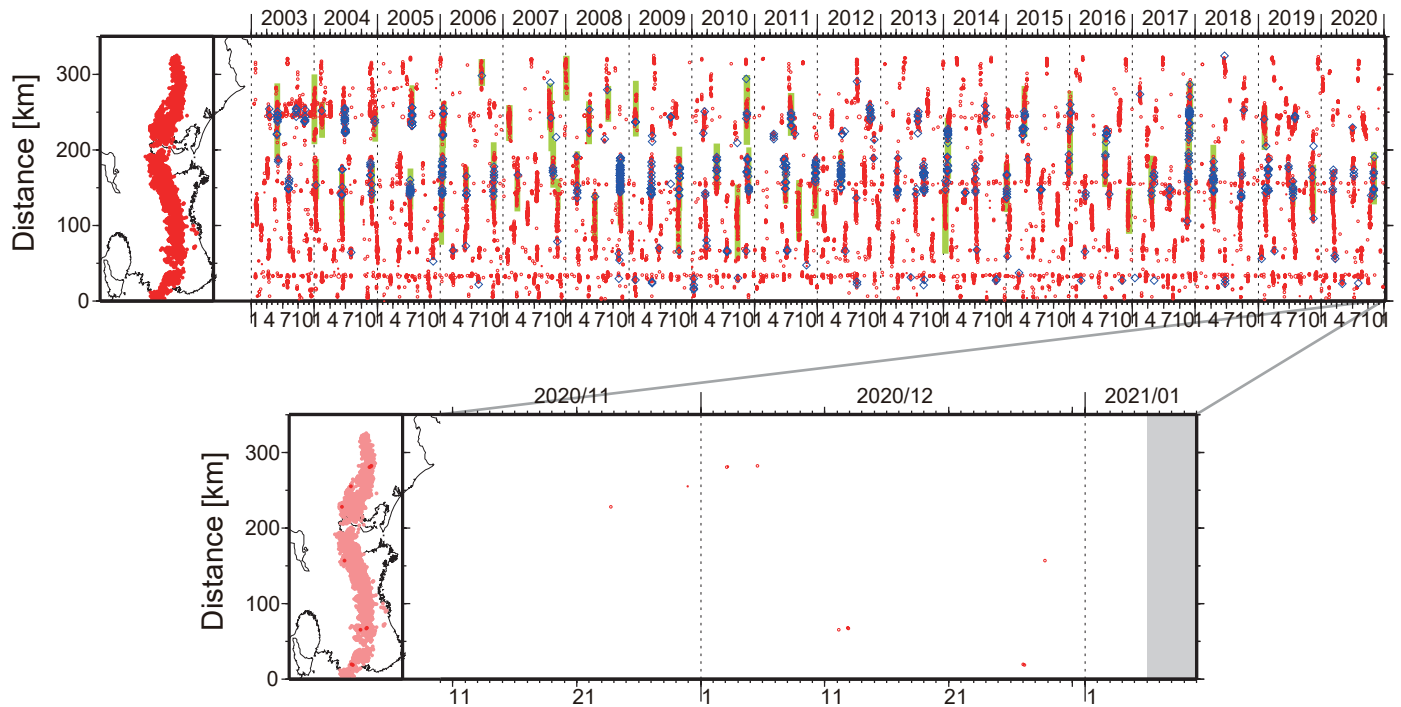


図1. 紀伊半島・東海地域における2003年1月～2021年1月5日までの深部低周波微動の時空間分布(上図). 赤丸はエンベロープ相関・振幅ハイブリッド法 (Maeda and Obara, 2009) およびクラスタ処理 (Obara et al., 2010) によって1時間毎に自動処理された微動分布の重心である. 青菱形は周期20秒に卓越する超低周波地震 (Ito et al., 2007) である. 黄緑色の太線はこれまでに検出された短期的スロースリップイベント (SSE) を示す. 下図は2020年12月を中心とした期間の拡大図である. この期間に顕著な活動はとくにみられなかったが, 12月12日頃には奈良県南部において, ごく小規模な活動がみられた.

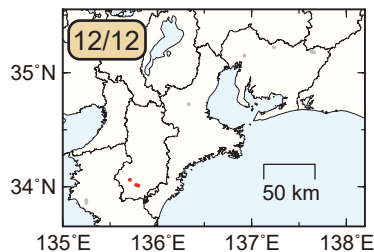
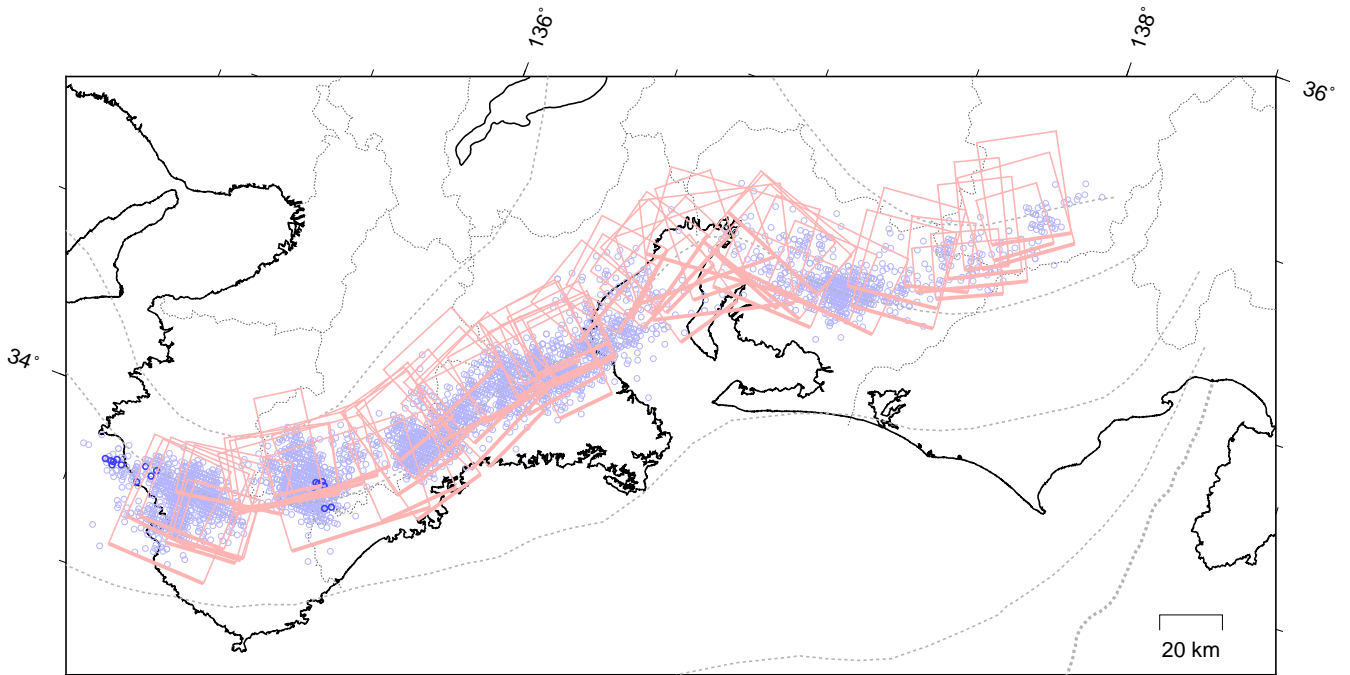


図2. 各期間に発生した微動(赤丸)の分布. 灰丸は, 図1の拡大図で示した期間における微動分布を示す.

# 東海～紀伊半島 短期的ゆっくりすべりの活動状況

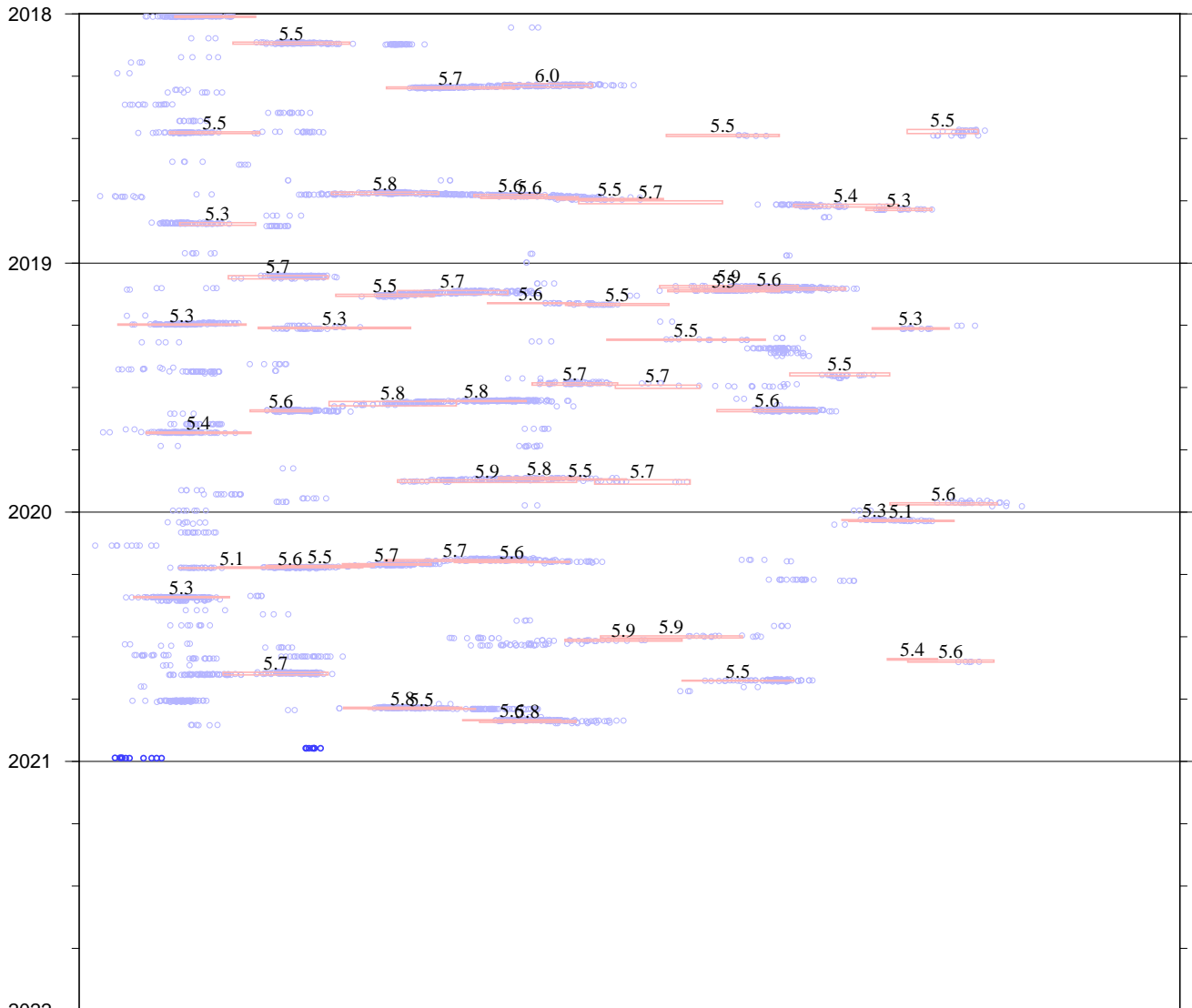
2018年1月1日～2020年12月31日

(2020年12月1日以降を濃く表示)



破線は、フィリピン海プレート上面の等深線を示す。  
赤矩形は、気象庁による短期的ゆっくりすべりの断層モデル(参考解を含む)を示す。

## 上図の時空間分布図



短期的ゆっくりすべりの解析には、気象庁、産業技術総合研究所及び静岡県データのデータを用いている。  
赤矩形の上に表示されている数字は解析されたMwを示す。  
青丸はエンベロープ相関法(防災科学技術研究所、東京大学地震研究所との共同研究による成果)で得られた低周波微動の震央を示す。

気象庁作成



● 12月15～18日頃に四国中部において、やや活発な微動活動。

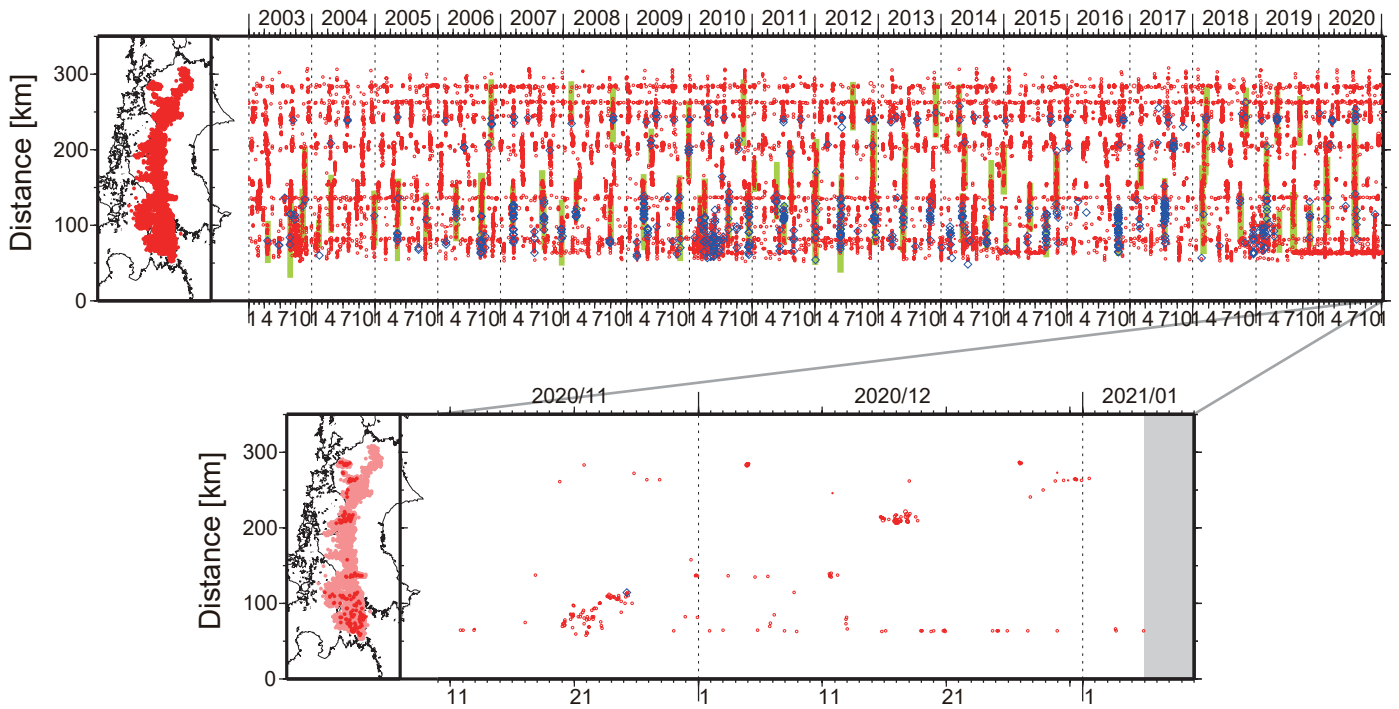


図1. 四国における2003年1月～2021年1月5日までの深部低周波微動の時空間分布(上図). 赤丸はエンベロープ相関・振幅ハイブリッド法(Maeda and Obara, 2009)およびクラスタ処理(Obara et al., 2010)によって1時間毎に自動処理された微動分布の重心である. 青菱形は周期20秒に卓越する超低周波地震(Ito et al., 2007)である. 黄緑色太線は、これまでに検出された短期的スロースリップイベント(SSE)を示す. 下図は2020年12月を中心とした期間の拡大図である. 12月15～18日頃には愛媛県東部で、やや活発な活動がみられ、やや北方向への活動域の移動がみられた. その他の活動として、12月4～5日頃および12月26～27日頃には香川県において、ごく小規模な活動がみられた. 12月11～12日頃には四国西部において、ごく小規模な活動がみられた. 12月29日～2021年1月1日頃には、香川・徳島県境付近において小規模な活動がみられた.

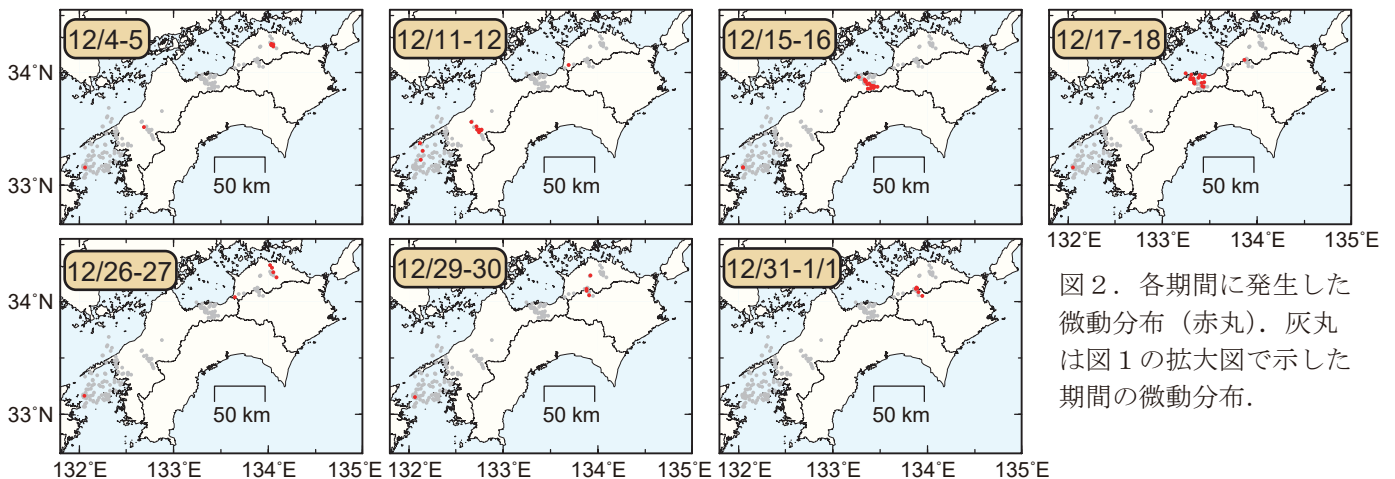


図2. 各期間に発生した微動分布(赤丸). 灰丸は図1の拡大図で示した期間の微動分布.

# 四国の深部低周波地震(微動)活動と短期的ゆっくりすべり

12月11日から15日にかけて四国西部で深部低周波地震(微動)を観測した。

12月15日から18日にかけて四国中部で深部低周波地震(微動)を観測した。

深部低周波地震(微動)活動とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計で地殻変動を観測した。これらは、短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

## 深部低周波地震(微動)活動

震央分布図(2018年4月1日~2020年12月31日、  
深さ0~60km、Mすべて)

灰:2018年4月1日~2020年12月10日、

青:12月11日~12月14日

赤:12月15日~12月31日

震央分布図の領域a内の時空間分布図(A-B投影)

